

バスツアー「加西の五百羅漢と西脇の播州織」のご案内

企画委員会

12月に入って急に寒さが厳しくなってきました。

新春の企画、第一弾は、「加西の五百羅漢と西脇の播州織」です。日本のへそを訪ねて、どーんと寅年の抱負を心に誓ってみませんか。ご参加をお待ちしています。

1. 日時：2022年1月14日（金）雨天決行

2. 集合場所と時間：梅田ダイワハウス前、午前7時50分（午前8時出発）。

2号車（先頭車）：2班と3班 1号車：1班と4班

3. 行程：大阪梅田（大和ハウス前）（午前8時発）～五百羅～西脇市【2号車（播州織工房館見学➡旧來住住宅見学）・1号車播州織工房館～旧來住住宅）】

～日本へそ公園駐車後（車中で食事30分間）～【2号車（経緯度地球科学館➡岡之山美術館）➡自由時間

1号車岡之山美術館➡経緯度地球科学館➡自由時間】日本へそ公園出発（15:00）～大阪梅田（17:30頃）～解散

4. 持参するもの：弁当、飲料、雨具

5. 費用：2000円 入場料は個人負担なし、科負担

参加不参加を、17日の班会議でお伺いしたいと思います。

参加予定の方は2000円も17日にご用意くだされば有難いです。

17日欠席の方は事前に参加不参加をメールにて班幹事にお知らせくださいますようお願いいたします。

（バス会社に連絡の必要があるので、お手数ですがよろしくお願いいたします。）

6. 注意事項：・全員マスク着用、ソーシャルスタンスをとる事、当日微熱とか体調が悪いと参加をみあわせてください。

7. 訪問先概要

五百羅漢石仏：



いつ誰が作ったなど詳細が不明とされていましたが、平成7年市の調査で、江戸時代初期に仏像が作られ、石仏は元々羅漢寺の南にある酒見寺にあり、寺の再興に伴う寺内整備で信仰、供養ため造立されたと考えられています。高室石と呼ばれる地元の凝灰岩が使われており、4世紀の間訴えるようなまなざしで黙々として何も語ろうとしませんでした。もともと石仏を造立することは亡き先霊を弔う純粋な信仰心の表れであります。この石仏群は戦国時代に一帯は荒廃し、寺も焼かれ、江戸期に入った17世紀の初期に寺の再興が図られました。その時に釈迦三尊像と羅漢像が作られたといわれています。彫技はたとえ稚拙とはいえ、石仏500を造立するために、その込められた哀しくも美しく澄んだ心に思いを馳せる時、じんと引き締められるほどの純粋さに感心せずにはいられません。

旧來住家住宅

1918年竣工の銀行家の來住梅吉旧邸で国の登録有形文化財に登録されている。当時の最高級材料与技術が用いられ釘が1本も使われずに建てられており数ある民家の中でも優れた建築物といわれている。

2001年來住家から西脇市に寄贈された。



